

習近平時代の対台湾政策

漢和防務評論 20160703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

習近平が国家主席に就任して3年、習近平は、この間我々が予測し得なかった政策を推し進めています。
驚かせたのは反腐敗粛清と大胆な軍改革ですが、台湾に対しても従来の幻想を捨て、武力解決を本気で考えているようです。
習近平は、中華民族の偉大な復興を掲げていますが、それが台湾統一を指すのかいまだ見えていません。

本誌編集部

この3年間の台湾問題に関する習近平の軍内講話を総合すると、習近平の対台湾政策が戦略的に見て大きく変化していることが分かる。中国軍は、対台湾作戦準備を速やかに整えつつある。

最近、中国戦略情報筋から以下の情報を得た。これは極めて注意すべき情報である。習近平は、軍内の各種講話において、彼自身が中国軍及び台湾情勢を良く理解していることを特に強調している。

2013年7月、習近平は、軍事委員会の特別な会議において”私と軍隊は強い絆で結ばれており、軍隊に対する私の思い入れは強い。私は子供のころから軍隊に対する真摯な感情が形成された。私は軍隊で長年仕事をしてきた。福建省に勤務した際には、しばしば軍内の同志と交流を持ち軍隊建設に関心があった”と述べた。

また高級戦略情報筋は次のように述べた：2015年、総政治部は”習近平の軍内講話”を配布し、高級幹部に対し閲覧させた。講話の内容は、高級幹部に対し：”中央軍事委員会及び習主席の権威を堅持し、行動の全ては軍事委員会及び習主席の指揮に従う”ことを要求するものであった。

台湾問題について、消息筋は次のように述べた：習近平は、彼が長年にわたり福建省及び浙江省において勤務したことを何度も講話で触れ、台湾情勢は良く知っている、と述べた。これは、彼が広州軍区及び42集団軍、31集団軍を何度も視察したからである。広州軍区及び南京軍区では、師団級以上の幹部と相次いで会談している。また、現在軍事委員会上層部に補任する多くの将軍は31集団軍出身者が多い。彼らは台湾軍の状況を良く知っており、軍事委員会の人員構成上からも対台湾作戦をやりやすくしている、と。

習近平は、2015年9月と2012年12月10日、陸軍第31、42集団軍を視察し、状

況報告を受けた後、即興で重要講話を行った。習近平は、この3年間、元南京及び広州戦区のこの2つの集団軍を視察しただけでなく、政治的に問題の発生した第14集団軍を視察した。胡錦濤は第16、26、14、47、31集団軍及び福州駐屯部隊を視察している。全体的に見て、胡錦濤は、蘭州及び成都軍区を極めて重視し、視察回数は5乃至6回に上った。

また消息筋は次のように述べた：42集団軍では、軍首長の報告を受けた後、講話を総括し習近平は次のように述べた。習近平の最も関心があるのは次の3個条である。一、党の軍隊に対する絶対指導を堅持する。二、軍の戦闘力を高め、勝利を獲得する。三、光栄ある伝統を発揮する。

また習近平は、軍事的手段は最後の問題解決手段であると述べている。武力解決策を採る場合の重視事項について、習近平は軍首長に対し次のように述べた：水陸兩用作戦、陸軍航空作战、特殊作战、電子対抗戦を重視して戦力を高め、部門ごとに効果的な作战準備を行う、と。

南海艦隊において、2012年2月、部隊から報告を受けた後、習近平は、次のように直接指示した：台湾海峡及び南シナ海情勢の変化を密に把握し、最も困難かつ複雑な状況を前提として、準備に万全を期さねばならない。発生する可能性のある突発事件に対しては、随時臨機応変に対処しなければならない、と。ここで習近平は、台湾海峡情勢を第一の要素に挙げた。

”習近平が国家主席に就任した後、中国軍にとって最大の変化は何か？”とのKDRの質問に対し、消息筋は：習近平は、軍人の普遍的なセンスを持ち、真に戦える人だ。この点は、江澤民及び胡錦濤との最大の相違点である。彼は、歴史上に名を残したいと考えており、毛沢東でさえ出来なかったことをやろうとしている人間だ、と。

戦争準備は、着々と進行している。最近、南シナ海の永興島にはYJ-62型陸上発射型対艦ミサイル及びHQ-9型地对空ミサイルが配備された。中国の多くの戦略学者は、これを”戦略的な投資”であり、周辺国に対して不必要な刺激を与えていると述べている。外交部門も遠まわしに批判している。しかし中国軍は、これが習近平の求める台湾問題解決のための軍事闘争準備であると理解している。南シナ海での全ての努力目標は、戦時米国空母艦隊を台湾海峡地区に進入させないことであり、それは海軍及び空軍に要求されている。このように理解すると、南シナ海での最近の人工島造成は、完全に間違っている。

習近平は台湾独立問題をどのように考えているか？

この質問に対して戦略情報筋は次のように強調した：習近平以前、対台湾工作部門は、”一国両制”方式で台湾問題を解決しようとしていた。特に香港問題が激化す

る以前はそうであった。しかし習近平は台湾問題の本質を理解しており、この3年間、党内の上層部及び軍内部と逐次共通認識を持つに至った。それは：“一国両制”では台湾問題を解決できない、と。それはすでに不可能になった。たとえ台湾が交渉に応じたとしても、技術的に不可能になったのである。例えば、軍隊をどうするのか？情報機関をどうするのか？台湾に武器を提供する者がいるか？この技術的問題に関して中国は何度も論証を試みた。しかし根本的に答えは出なかった。国名、国号を改める？中国に同意する者がいるか？

KDR はこの結論に特に注目した。習近平時代になって、中国軍内部で台湾対策を真剣に検討した可能性が極めて高いからである。

中国軍は、台湾独立をどう考えるか？消息筋は次のように述べた：最近、軍级以上の上級部隊に対して、軍事委員会政治工作部から「国際戦略情勢と国家安全環境に関する通知」が伝達された。このなかで台独分裂勢力の”生まれ変わっても独立を絶対に諦めない精神”について記述している。

結論は：局地戦争、武力衝突発生の可能性は高い、としている。

KDR の分析は次の通り：全ての政治的、軍事的シグナル、特に南シナ海への軍事基地建設、習近平が頻繁に東部戦区を視察していること及び高級軍人の多くが台湾情勢を相当熟知していること等から見て、習近平の対台湾政策は、戦略的調整の段階にあると考える。現在、成り行きを見守る必要があるのは、蔡英文の対大陸政策がどうなるか、である。

内政問題を見ると、習近平時代になってから経済が悪化、党内の多くの問題が未解決、左派、中間派、右派がみな彼を歓迎していない。今のところ、歴史上に残るような業績は何もない。しかし彼は上述のごとく、遠大な志を持って、歴史の1ページを飾る人物に成ろうとしている。反腐敗、軍事改革への意志行動力は強く、彼の向う方向に注意しなければならない。

彼が歴史上に名を残すには、若干の選択がある：

民主化、すなわちソ連が歩んだ路線である：これは全く望んでいない。彼が国家主席に就任してから、すでにソ連を批判している。

結局彼は、中国をどこに持って行こうとしているのか？戦略や政治思想があるのか？胡錦濤、江澤民或いは鄧小平とどこが違うのか？現在本誌には見えてこない。

ただ注意すべきことは：南海艦隊、第42集団軍、第31集団軍及び広州軍区の師団級以上の部隊で幹部から報告を受けた後に行った即興の講話である。この中で彼は”中華民族の偉大なる復興”を提議している。”祖国統一の完成”が彼の求める理想を意味するのであろうか？如何に実現するのか？

銅鑼灣書店事件の後、KDR は、今後の対中政策を研究する際には、”超越” の概念が必要である、と提議した。それは”過去の常態を超越する” ことである。この新たな”超越概念” で習近平の政策を見ないと、彼の南シナ海大規模埋立や武器配備等、問題の背後にある根源が理解できないからである。毛沢東や鄧小平でさえやらなかったことを習近平はやっているからである。これが本誌の言う”超越” の意味である。当然、この種”超越した思考” は対日関係も含まれる。

また別の観点、医学上からも注意すべきである。第一に軍事改革のスピードには焦りが感じられる。このほか、習近平の録画映像には、頻繁に瞬きするシーンが多い。KDR はこの問題について医学界の意見を聞いた。医師によると：頻繁に瞬きするのは、頭脳の動きが速く、通常は焦り易い性格の人に多いと言う。

結論：台湾海峡は、習近平時代になり、彼の前任者達の時代に比べ確実に危険な時期に入った、と言える。

以上